

目標年度：令和2年度

策定年度

令和2年度

平田村水田農業水田フル活用ビジョン

名称：平田村農業再生協議会

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

- ・平田村は、福島県の南部に位置しており、全地が阿武隈山系に含まれ、標高400m～600mの中山間地域に農用地が点在している。
- ・水田は全耕地面積の約53%を占めているが、山間にあり湿田等が多い。ほ場整備等が遅れているため、小区画の水田が大半を占めており、農家1戸当たりの水田面積も70aと零細で、米、たばこ、畜産と複合型農業が中心となっている。
- ・畜産業が盛んなことから、需給調整における水田の利活用において、飼料作物の作付け、耕畜連携の取り組みに積極的である。
- ・水稻作付農家・畜産農家が継続して営農ができるよう、需給調整における飼料用米、WCS用稲、耕畜連携の取組みへの支援が必要である。
- ・農業者の高齢化や担い手不足しており、それに伴う遊休農地の増加や後継者不足について大きな課題を抱えている。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

コシヒカリ、ひとめぼれ、チヨニシキを主品種とし、環境保全の試みと合わせながら食味ランク特A取得に向けた食味分析にも取り組み、良食味米・特別栽培米等のこだわり栽培を強化します。

また、密苗・疎植栽培等の省力化・低コスト化栽培の拡大を推進します。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

地域の畜産農家を対象に、畜産物のブランド（発酵TMR）、自給飼料の拡大を目指し、国からの水田活用の直接支払交付金及び産地交付金を活用した多収品種の導入推進及び団地化の推進を図り拡大に努めます。耕畜連携により、わら利用の供給を活用し連携をはかります。

産地交付金を活用し、団地化等生産性向上の取組により低コスト生産の取組を推進します。

イ 米粉用米 「該当なし」

ウ 新市場開拓用米

米の新市場開発として、内外の新市場の開拓を図る米穀の作付面積に応じて推進をはかります。

エ WCS 用稲

産地交付金を活用し、団地化等生産性向上の取組により低コスト生産の取組を推進します。

主食用米の需給減が見込まれる中、WCS 用稲の需給調整を図り、主な需要者である福島県酪農業協同組合や J A（繁殖部会・酪農部会）を中心に、自給飼料を含めた畜産農家との連携をとり作付面積の拡大を図ります。

WCS 用稲の需給調整を図り、飼料生産請負組織（コントラクター）の育成を図ります。地元産農家など需要先の新規開拓を図り作付面積の拡大を図ります。

耕畜連携事業にも取組、産地交付金を活用し面積拡大を図ります。

オ 加工用米

該当なし。

カ 備蓄米

主食用米の需要減により、主食用米にかわる作物として、備蓄米の推進を図ります。

(3) 麦、大豆、飼料作物

ア 麦・大豆

土地利用型作物の麦については、他の作物との競合が少なく、省力機械化栽培が可能であるため、稲作との組合せによる低コスト生産を目指します。

大豆については、該当なし。

イ 飼料作物

中山間地域の活性化においては、畜産業が重要な役割を担っています。このため、転作田の有効活用による飼料生産基盤の拡大を図り、耕畜連携による安定的な飼料供給を推進します。

また、栽培管理技術の高位平準化、優良草種の導入による数量の確保及び品質の向上を図り、飼料作物の効率的生産に努めます。

畜産農家の自家利用を図るとともに、耕種農家の生産する飼料作物については、飼料生産組織等で保有する機械等を活用し、低コスト化による畜産農家への安価な供給を促進します。

なお、対象作物は「イタリアンライグラス、オーチャードグラス、飼料用かぼちゃ、青刈りとうもろこし（デントコーン）、えん麦、青刈り稲、青刈りソルガム、チモシー、クローバ」とします。

(4) そば、なたね

転作田の活用と遊休農地の解消を図るため、そばの生産を推進します。

そばの作付の推進として、二毛作を推進して農地の有効活用を図ります。

なたねについては、該当なし。

(5) 高収益作物（園芸作物等）

ア 野菜

野菜の周年供給体制づくりに向けた、地域性を活かした品目の確立を目指すとともに、生産の組織化により食品の生産から加工・流通・販売までの過程を一元的に把握することで、トレーサビリティの向上による食の安全・安心を意識した野菜作りを推進します。

トマト、きゅうり、アスパラガス、いんげんを主品目と位置づけ積極的な拡大を図

り、産地交付金を活用し、施設栽培や被覆栽培の普及・定着化による品質の向上、作期幅の拡大、作柄の安定を推進し JA 等を通じ出荷拡大を図ります。

また、中山間地域の地理的条件を活かし、作期幅の拡大によるブロッコリー、春菊の産地形成を図ります。

本村の野菜を積極的に PR し、市場販売や直売所、更に学校給食等における食材活用を図り、地産地消を絡めた販売体制の構築を図ります。

イ 果樹

該当なし。

ウ 花き

花きについては、販売用及び景観形成作物としてコスモスやひまわり、れんげ、りんどう、小菊等の栽培に努め、遊休地の活用を推進します。

生産量の増大と栽培技術の向上を図り、高冷地を利用した品質及び花持ちの良さを積極的に市場へ PR し、併せて直売所等での販売を推進します。

特にりんどうについては、主品目と位置づけ産地交付金を活用し、生産拡大を図ります。

エ 雑穀

最近、健康（抗アレルギー食）食品として注目されている雑穀類（あわ・もろこし・はとむぎ・アマランサス・ひえ等）の導入を進めます。

オ その他作物

その他地域振興作物として、「葉たばこ」とします。

(6) 畑地化の推進

水田の畑地化面積に対応して取組を推進し、高収益を目的として取り組めるように進めます。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	今年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	415.00	396.00	396.00
飼料用米	57.57	50.00	60.00
米粉用米	0.00	0.00	0.00
新市場開拓用米	0.00	0.00	0.00
WCS用稲	19.89	19.00	20.00
加工用米	0.00	0.0	0.0
備蓄米	42.94	50.00	60.00
麦	2.62	2.90	2.90
大豆	0.00	0.00	0.00
飼料作物	59.23	60.00	63.00
そば	3.80	3.80	3.80
なたね	0.00	0.00	0.00
その他地域振興作物	5.91	5.78	6.24
アスパラガス	1.53	1.53	1.60
きゅうり	0.07	0.07	0.08
トマト	0.12	0.12	0.20
いんげん	0.39	0.39	0.50
ブロッコリー	0.00	0.00	0.00
かぼちゃ	0.06	0.06	0.06
花き	0.27	0.27	0.30
葉たばこ	3.47	3.34	3.50
その他	0.00	0.00	0.00
合計	606.96	587.48	611.94

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物 (基幹作物)	用途名	目標	目標	
				前年度(実績)	目標値
1	飼料用米 (一般品種・ 多収品種) (基幹作物)	飼料用米 推進支援	飼料用米の作付面積 (うち生産性向上の 取組面積) 飼料用米(一般品種、 多収品種)の生産費	(2019年度) 57.57 ha (2019年度) 46.05ha (2019年度) 14,584円/60kg	(2020年度) 60.00 ha (2020年度) 48.00ha (2020年度) 13,854円/60 kg
2	WCS用稲 (基幹作物)	WCS用稲の団 地化によるコス ト削減支援	WCS用稲の 作付面積 (うち生産性向上の 取組面積) WCS用稲生産量	(2019年度) 19.89 ha (2019年度) 15.91ha (2019年度) 1,650 kg/10 a	(2020年度) 20.00 ha (2020年度) 16.00ha (2020年度) 2,100 kg/10 a
3	野菜、花き、花木、 その他作物 (基幹作物)	地域振興作物助 成	地域振興作物の作 付面積	(2019年度) 5.91 ha 野菜 2.17 ha 花き 0.27 ha たばこ 3.47 ha	(2020年度) 6.24 ha 野菜 2.44ha 花き 0.30ha たばこ 3.50ha
4	飼料用米の生産 ほ場の稲わら (基幹作物)	わら利用 (耕畜連携)	飼料用米の稲わら の利用面積	(2019年度) 46.05ha	(2020年度) 48.00ha
5	WCS用稲(基幹 作物)、 粗飼料作物等(基 幹作物)	資源循環 (耕畜連携)	WCS用稲 資源循環の取組面積 粗飼料作物 資源循環の取組面積 取組面積合計	(2019年度) 19.89ha (2019年度) 7.37 ha (2019年度) 27.27ha	(2020年度) 20.00ha (2020年度) 7.40 ha (2020年度) 27.40ha
6	そば(二毛作)	そば作付助成 (二毛作)	二毛作の取組面積 定着度	(2019年度) 2.90 ha 4.7%	(2020年度) 3.20 ha 4.9%

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内としてください。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり